

志木第九の会 第22回 定期演奏会

三澤 洋史 作曲 《被造物の讃歌》〔太陽の讃歌〕
《主の祈り》

W.A.モーツァルト 作曲 《レクイエム》

ソプラノ：藤崎 美苗 アルト：高橋 ちはる

テノール：初谷 敬史 バス：大森 いちえい

エレクトーン：長谷川 幹人 ピアノ：矢内 直子

Ensemble Fons Deserti (コンサートマスター:大光 嘉理人)

合唱：志木第九の会合唱団

指揮：三澤 洋史

2026年9月5日(土) 開場13:30 開演14:00
ふじみ野ステラ・イースト ホール

入場料：2,000円(全席自由)

※ 出演者への花束、プレゼントのお預かりは致しませんのでご了承ください。

※ 未就学児の入場はお控えください。

◆入場券取り扱い

志木市民会館仮設会議室(マルイファミリー志木8F) / 宗岡公民館 / 秋ヶ瀬スポーツセンター
ふじみ野ステラ・イースト / ふじみ野ステラ・ウエスト

◆お問い合わせ

志木第九の会 090-4474-2901 (担当:大村)

SNS：Facebook X(旧 Twitter) [志木第九の会]で検索



志木第九の会 第22回定期演奏会

志木第九の会は志木市市制施行20周年記念事業の一環として、ベートーヴェン「第九」を歌うために集まった合唱団の有志が母体となり、1991年9月創立された混声合唱団です。

定期演奏会では、三澤洋史音楽監督の指導のもと、「第九」はもとよりモーツァルト、ヴェルディ、フォーレの《レクイエム》、ハイドン《天地創造》《四季》、メンデルスゾーン《エリア》《聖パウロ》、ヘンデル《メサイア》などの大曲に挑み、高田三郎《水のいのち》、佐藤真《土の歌》などの日本の混声合唱組曲にも取り組んできました。

また、志木市文化・コミュニティ事業の「いろはふれあい祭り」などにも参加し、地域に愛される合唱団をめざしています。

三澤洋史作曲《被造物の讃歌》《主の祈り》

《被造物の讃歌》は、イタリアのアッシジに生誕し没した偉大なカトリック修道士聖フランシスコ(1182-1226)作の祈りの詩です。今年は没後800年にあたります。彼は生涯、物質的な蓄積や感覚的な快適さを拒み、世界のすべてが神からの賜物だと説き続けました。フランシスコ会を創立(1224年)し、聖フランシスコ聖堂が建てられる頃、彼は病に侵されほぼ失明状態にありました。しかし心の目で自然を見つめながら、創造の美しさと生命の神秘を讃えるこの不朽の祈りを謳いあげました。

三澤洋史(当団音楽監督)が曲を付けたこの詩を、現在活躍中のソリスト達が歌います。

続いて、イエス・キリストが弟子たちに教えた祈り文である《主の祈り》を団員が合唱します。この祈りの詩も三澤洋史の作曲によります。

W.A.モーツァルト作曲《レクイエム》

モーツァルトの《レクイエム》は、未完の遺作でありながら合唱曲の傑作であり、聴く者の心を揺さぶり、感動を覚えさせます。全8楽章(14曲構成)のうち、モーツァルトがほぼ完全に書き上げたのは冒頭の「入祭唱」「キリエ」楽章のみでした。しかし、他の楽章の大部分では声楽部分と通奏低音まで書き進められ、残る管弦楽部分についても彼の意図は明確に示されていました。それを受け、弟子のジュスマイヤーの補筆により完成されました。

モーツァルトは通常、一気に曲を書き進めましたが、この作品では長い苦闘を強いられました。その苦闘を如実に物語る、胸を打つ断片があります。絶筆部分「涙の日」の8小節。これこそが命の灯火が消えゆく中で最後に書き残したものだと考えられています。この作品は、自らの死を悟った天才作曲家による、最後にして必死の懇願であるかのように響きます。

この曲には複数の補筆版が存在しますが、本演奏会では、ジュスマイヤー版に対して比較的控えめな修正の施されたバイヤー版を歌います。



W.A.モーツァルト
(1756~1791)

ふじみ野ステラ・イースト ホール

ふじみ野市福岡1-1-8 (ふじみ野市役所そば)

駐車場は台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

徒歩 上福岡駅東口より約15分

バス 上福岡駅東口前より西武バス
右のQRコードから西武バスの時刻表が表示されます。



入場券取り扱い

志木市民会館仮設会議室(マルイファミリー志木8F) / 宗岡公民館 / 秋ヶ瀬スポーツセンター

ふじみ野ステラ・イースト / ふじみ野ステラ・ウエスト

お問い合わせ 志木第九の会 電話:090-4474-2901(担当:大村) Mail:shiki.dai9.1991@gmail.com
SNS:Facebook X(旧 Twitter) [志木第九の会]で検索